

年 組 名前

川端の初恋 苦心の筆跡

新たに見つかった川端康成の小説「篝火」の草稿 川端家所蔵



川端康成

自伝的小説「篝火」の草稿見つかる

ノーベル文学賞作家の川端康成が若き日に初恋を題材に執筆した自伝的小説「篝火」の草稿が見つかった。東京都目黒区の日本近代文学館が確認した。

と、川端が推敲を重ねた様子が見つかっている。四月二日から始まる文学館の特別展に向けた調査で見つかった。

川端は二十代の頃に結婚を約束し、後に別れを告げられた伊藤初代をモチーフに複数の小説を執筆。「篝火」は岐阜県を舞台にしている。モチーフの初代は当時、岐阜市の寺の養女になっていた。作中では「みち子」という名で登場し、長良川の鵜飼いを見る場面もある。

文学館理事長で早稲田大名誉教授の中島彦さんは「二連の作品の中で『篝火』は、二人の気持ちが最も高まった時期を描いたもの」とみている。「篝火」の草稿は、特別展「川端康成展 人を愛し、人に愛された人」（六月十一日まで）で初公開される。

問1：川端康成の代表的な作品を、次から二つ選びましょう。

- ア 伊豆の踊子 イ 坊っちゃん ウ 高瀬舟
- エ 杜子春 オ 人間失格 カ 雪国

問2：ノーベル文学賞作家を、次から一人選びましょう。

- ア 村上春樹 イ 夏目漱石 ウ 大江健三郎
- エ 三島由紀夫 オ 芥川龍之介